第一部 昭島・立川を歩く

【散策マップ】

拝島大師

「拝島のお大師さま」として親しまれていますが、正式には天台宗本覚院といいます。有名なだるま市は幕末に始まったもので、今も多くの参詣者が集まります。

アキシマクジラ出土地

この付近の河原で、昭和36（1961）年に160万年前のクジラの骨格が発見されました。全骨格がほぼ完全な形で発見されたのは日本初のことで、この化石はアキシマクジラと名づけられました。

列車衝突事故時の車輪

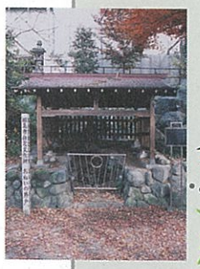
河原のすぐ上流を通る八高線で昭和20（1945）年と昭和22（1947）年に衝突事故がありました。最近、そのときのものと思われる車輪が台風の増水によって姿をあらわし、話題になっています。

築地（ついじ）の渡し跡

築地村（現昭島市）と粟之須村（現八王子市）を結んだ大山街道の渡し。船の形の記念碑と案内板が散策路わきに建てられています。

大日堂・おねいの井戸

滝山城主家臣、石川土佐守の娘おねいが目を洗い、眼病が治ったという言い伝えのある井戸。喜んだ土佐守は大日堂など8つの寺を建立したといわれています。大日堂・日吉神社の境域は、都の史跡に指定されています。



普済寺

南北朝時代、武蔵七党の１つ、西党の立川宮内少輔宗恒が建立したのが始まり。中世には関東屈指の大寺となりましたが平成8（1996）年の放火で本堂が焼失しました。ここに収められている南北朝時代1361年作の六面石幢は国宝となっています。

日吉神社

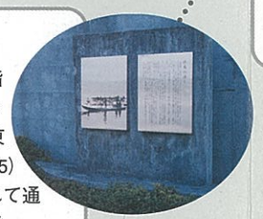
本殿の彫刻・拝殿天井の花鳥図は昭島市の指定文化財。毎年秋に行われる榊祭りは江戸時代から現在まで続いており、東京都の無形文化財に指定されています。

諏訪神社

信州の諏訪大社から弘仁2（811）年勧請。普済寺と同じく近年放火で焼失し、再建されました。8月の祭礼の際に行われる獅子舞は、元禄時代から続いています。

拝島の渡し跡

日光街道筋にあたり、東照宮参詣のために要人が渡った記録が残っています。昭和元（1926）年には東京府営の渡しになり、昭和10（1935）年からはバスも渡し船に乗せられて通りましたが数年で廃止になりました。



むやみな立ち入りを禁止し、貴重な生物などを守っているエリアです。

日野用水堰

江戸時代に造られた取水堰で、日野市へ水を取り入れています。堰に設けられた魚道は平成14（2002）年6月に改築を終え、魚が遡上しやすい形に造り替えられています。

多摩川岸辺の散策路

自然を感じながら水辺を歩けるように河川敷に設けられた小道を、岸辺の散策路といいます。国土交通省が流域の各自治体と整備を進めています。

残堀川

多摩川の支流で、江戸時代には玉川上水の補助水として使われていました。一時水質が悪化しましたが、最近はかなり良くなっています。

昭島・立川散策コース

1. 9:30 昭島駅集合
2. 拝島大師
3. 大日堂
4. おねいの井戸
5. 日吉神社
6. 拝島の藤
7. 拝島の渡し跡
8. 生態系保持空間
9. 昭島水辺の楽校予定地
10. 日野用水堰
11. 12:00 アキシマクジラ出土地（昼食）
12. 多摩川岸辺の散策路
13. 多摩大橋付近の河原
14. 築地の渡し跡
15. 残堀川
16. 普済寺
17. 柴崎分水跡
18. 諏訪神社
19. 立川市立第一小学校（ディスカッション会場）

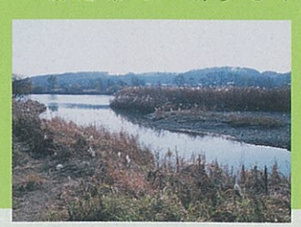
昭島・立川いまむかし

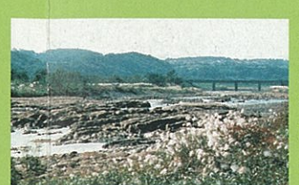
多摩川中流域に位置する昭島・立川は、考古学的にも見どころの多い地域です。立川段丘の上には、湧き水のそばに古代人の住居跡が見つかっていますし、八高線鉄橋下流の河原からはアキシマクジラの化石が、拝島橋上流からはアケボノゾウ足跡、幼体化石が発見されました。多摩川から高台に目を転じれば、信州諏訪から勧請された諏訪神社や、近世から近代にかけて仏教布教の中心となった普済寺など、多くの神社仏閣が点在しています。

江戸時代前期（１６４８）年に開設された日光街道の「拝島の渡し」、大山街道の「築地の渡し」は姿を消しましたが、周辺の豊かな自然を守る取り組みは始まっています。水と親しめる『水辺の楽校』や、歩きやすく整備された『岸辺の散策路』など、自然との共生をはかる施設が多いのもこの地域の特徴です。

コラム1 昭島水辺の楽校予定地

”川を身近な自然教育の場として活用し、川を核にした地域社会の中で心身共にたくましい子どもに育てていこう”というのが『水辺の楽校』プロジェクトです。人工的に造成したワンド（入り江のように、静水になっているところ）を中心とした川を舞台に、川に詳しいボランティアの方が、子どもたちと一緒にさまざまな活動を行います。「昭島水辺の楽校」は平成15年4月の開校を目指して市民と、関係する行政の協働で整備や活動方針の議論を進めています。多摩川全域で5箇所の『水辺の楽校』が計画され、すでに「狛江水辺の楽校」「かわさき水辺の楽校」では活動が始まっています。



コラム2 多摩大橋付近の河原

流れの中のデコボコした岩と、晩秋の風になびく河原のオギの穂が対照的なこのあたりの風景は市民に選ばれた「多摩川八景」の一つ。それは「第三紀層露岩」と呼ばれる地層で、粘土を含む砂から形成されており、この地層からは約１２００万年前の貝や魚の化石が出ることもあります。まるで川の中に牛がいるように見えますが、洪水によってこの独特の地形が作られると考えられています。